

はじめに

朝倉 敏夫*

立命館大学と国立民族学博物館（以下、民博）は、2016年12月3日、4日に、中国の亞洲食学論壇（Asian Food Study Conference）と連携し、びわこ・くさつキャンパスのエポック21において学術協定締結記念の「第2回国際シンポジウム：食文化の交流」を開催した。本特集は、その成果の一部を公開するものである。

現代社会は、食をめぐる複雑で錯綜した諸課題に直面しており、それらを解決することは人類の未来を切り開く最も大きな課題となっている。こうした課題に答えるためには、食とのかかわりのなかで、社会科学、人文科学と、自然科学からの研究成果を視野に捉えながら、具体的に社会の発展へと還元する実践を可能とするための総合的な学びの体系が必要である。

立命館大学は、この総合的な学びの体系として、食とのかかわりのなかで人間の生活環境としての社会を系統的・実証的に分析するフード・マネジメント、人間の生活の営みや精神活動を分析して理解するフードカルチャー、それに食材から体内への取り込みと認知までの一連の化学的な仕組みを理解するフードテクノロジーの三分野を設定した。そして、この三分野を総合的に学ぶカリキュラムを策定し、社会の発展に寄与する実践力を養成する教育によって、現代的な食の社会的課題の解決に向けて中心的な役割を果たしうる能力を備えた人材を育成するために、食マネジメント学部の設立を構想した。

その立ち上げとして2014年1月に国際食文化研究センターを設立し、2014年7月に民博と学術交流協定を締結し、それを記念して同年12月に「第1回国際シンポジウム：世界の食文化研究と博物館」を共同開催した（『社会システム研究』特集号、2015年7月に収録）。その折、基調講演者の一人であった趙栄光（ZHAO Rongguang）より、主宰する亞洲食学論壇を日本で開催したいという要請があり、今回の国際シンポジウムに「第6回亞洲食学論壇」という冠をかぶせて開催した。

本シンポジウムのテーマは、「食文化の交流—過去・現在・未来」という大きなものである。人類は、古くから今日にいたるまで、食の交流を通して、それぞれの国・地域の食の文化を形成してきた。それは、それぞれの国・地域における「国際化」とむすびついているともいえる。日本を例にとれば、外来の食が日本に受容されたのには、考古学的時代を別にすると、7・8世紀、17世紀、19世紀という三つの時代の山がある。7・8世紀は唐文化を摂取して律令国家

* 執筆 者：朝倉敏夫

所属/職位：立命館大学経済学部/教授 国際食文化研究センター/センター長

機関住所：〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1

E-mail：tasa@fc.ritsumeai.ac.jp

を形成した時代であり、17世紀は大航海時代の結果、表面的には鎖国体制をとったものの、鎖国という独自のスクリーンをとおしてむしろ積極的に外来文化を受け入れた時代、そして19世紀はいうまでもなく文明開化の時代である(熊倉功夫『日本料理文化史』人文書院、2002年)。そして、現代は、「もの」、「人」の移動にとどまらず、「情報」の移動によって、急速かつ広範囲に食の交流が進んでいる。

では、アジアの世界では、どのような時代の山があったであろうか。今回のシンポジウムでは、アジアにおける食文化のダイナミズムを交流という視点から解明していきたいと考えた。

シンポジウムの1日目のプログラムは、立命館大学の谷垣和則教授と民博の河合洋尚准教授の司会進行にしたがって、最初に趙栄光の「アジア食学論壇の創立と追及」と題するオープニングスピーチがあった。趙は中国食文化研究の第一人者であり、亜洲食学論壇の歴史は、中国の食文化研究の歩みと軌を一にするものである。次いで朝倉敏夫がシンポジウムの趣旨説明を行った。

つづいて民博の三代目館長である石毛直道、ハーバード大学ライシャワー日本研究所長のテオドル・ベスター(Theodore C. Bestor)、日本フードサービス協会会長の菊地唯夫の3名の基調講演があった。

石毛は、日本の食文化研究の開拓者であり、今なお研究に邁進され、2016年8月には北京に石毛先生を記念する食文化研究所が設立されている。2015年に刊行された『日本の食文化史—旧石器時代から現代まで』(岩波書店)で、「四季の変化に富み、多様な食材を収穫できる日本列島で、素材の味を活かす独特の調理法が生み出された。そして、外来の文化も巧みに取り入れ、伝統的な日本の食文化が形成されたのである」と日本食の特色を捉え、「食から日本文化を読み解くという姿勢」から「独自の巨視的な時代区分法を採用し」日本食の魅力を解き明かす食文化史を綴っている。本シンポジウムでは、「食文化交流の歴史—日本を例に」というタイトルで発表した。

ベスターは、今まさに豊洲移転で話題となっている築地魚市場を1989年から2003年までフィールドワークし、その全貌を描いた民族誌『築地』(木楽舎、2007年)は日本語版としても出版されている。ベスターによって描かれた築地は、「カナダ産やチリ産のサケ、トレーに盛り込まれたタイのエビ、オホーツク産のカニ、ニューヨークやイスタンブールから空輸された生のクロマグロ、浜松産のウナギ、西アフリカ産の茹でダコ、四国産のタイ、中国産のフエダイ、そして、北海道でつめなおした米メイン州産のウニ」と世界の水産物が集まり、「メイン州のウニ採集者からタイのエビ養殖業者に至るまで、そして、インド洋で延縄漁業を行う日本人からアドリア海のマグロを蓄養するクロアチア人に至るまで、とグローバルな漁業を動かす市場でもある」と、まさにグローバル時代の食の交流の場を代表している。本シンポジウムには、体調不良となり急遽欠席されたが、「『和食』食文化遺産とグローバル化する食文化」と題した発表用の原稿を送ってくださった。

この発表とあわせて朝倉が補足として、2013年にユネスコ無形文化遺産に同時に登録された日本の「和食」と韓国の「キムジャン文化」との比較を説明し、一般社団法人和食文化国民会議の熊倉功夫会長から提供していただいた「和食の定義」を披露した。

菊地には、立命館大学食マネジメント学部がマネジメント、カルチャー、テクノロジーを三本の柱とし、ことにマネジメントを前面に打ち出した学部を構想していることから、ロイヤルホールディングス代表取締役会長という立場から「外食産業の持続的成長に向けて」というタイトルで、食のマネジメントに関する現場からの話をいただいた。

これらの発表は、殷暁星（立命館大学専門研究員）、劉征宇（総合研究大学大学院生）、マリア・ヨトバ（関西学院大学非常勤講師）を中心に、発表演語をそれぞれ日本語、中国語、英語に翻訳してもらい、それらをスクリーンに投影するという形式をとった。本特集においては、趙の発表の日本語訳、石毛の日本語発表原稿、ベスターの原稿の日本語訳、菊地の発表パワーポイントを再構成した日本語原稿を掲載する。

2日目のプログラムは、分科会発表と一般発表が行われた。分科会については、民博と共同で食文化を多角的側面から検討するため、当初は「歴史」、「文化現象・制度」、「生態・資源」、「消費・経済行動」、「情報」、「マネジメント」の六つのテーマをたて、前三者は民博の教員が、後三者は立命館大学の教員が分担責任者となり、それぞれ発表者を募った。そして、応募された発表内容から、池谷和信（民博教授）・サバン（**Françoise SABBAN**）（フランス国立社会科学高等研究院教授）の担当する「歴史」と三藤利雄（立命館大学 **MoT** 研究科教授）の担当する「マネジメント（経営）」はそのままのタイトルで、河合洋尚（民博准教授）・劉征宇（総研大院生）の担当する「文化現象・制度」は「社会主義と中国」に、野林厚志（民博教授）の担当する「生態・資源」は「環境・身体」に、「消費・経済行動」は井澤裕司（立命館大学経済学部教授）の担当で「経済」に、海老久美子（立命館大学スポーツ健康学部教授）の担当する「情報」は「安全・健康」にそれぞれタイトルを変更して実施し、中国から「博物館」をテーマとした分科会の申し込みがあった。これに、一般発表を加え、中国をはじめ世界十数カ国から100人を超える発表者を数える盛大なシンポジウムとなり、研究発表は、当初考えていた2日目だけでなく、1日目の午前にも行うことになった。そのプログラムは表1のとおりである。

これらの発表のうち、民博担当の分科会発表は、民博発行の機関誌に掲載し、一般発表のうち中国語・英語発表は中国側で刊行することにし、本特集においては、立命館大学の分担した三つの分科会「マネジメント（経営）」「経済」「安全・健康」と日本語で行われた一般発表の発表者から提出された論文9編を掲載することになった。

シンポジウム開催にあたっては、共同開催者の国立民族学博物館、浙江工商大学、後援の近畿経済産業局、一般社団法人日本フードサービス協会、公益財団法人江頭ホスピタリティ事業振興財団、立命館孔子学院、協力の公益財団法人味の素食の文化センター、千里文化財団から多大な協力を得た。おかげで、シンポジウムのタイトルであった「食文化の交流」について

の活発な議論とともに、「食の研究者の交流」にも大きな花が咲いた。

最後に、シンポジウムの事務局長として、立命館大学は谷垣和則教授、民博は河合洋尚准教授が活躍してくださった。中国からの参加者のビザ申請などの手続きは立命館孔子学院の佐藤典子さんはじめ、多くの教職員の皆さんにお世話になった。そして、シンポジウムから本特集の出版にわたって国際食文化研究センター事務担当の高田由美さんの献身的な働きがあった。記して感謝する。

表 1

Time table for presentation						
Dec. 3	Room A (K310)	Room B (K307)	Room C (K306)	Room D (K304)	Room E (K305)	Room F (K309)
10:00-12:00	Session: History ① [English] <u>Chair: IKEYA & SABBAN</u> Presenters: IKEYA Kazunobu AKAMINE Jun MINAMI Naoto Stefano MAGAGNOLI ZOU Xiaojuan		General Presentation [Chinese] <u>Chair: LIU Zhengyu</u> CHENG Xuerong ZHU Guifeng SIU Yanho YE Fangzhou WU Xin	General Presentation [English] <u>Chair: MACAPAGAL & St. Maurice</u> CHOE Ja Young & KIM Seongseop Raymond A. MACAPAGAL Hanafi HUSSIN Maria YOTOVA Greg de St. MAURICE	Session: Management [English] <u>Chair:</u> MITSUFUJI Toshio Presenters: ARIYOSHI Junki & MITSUFUJI Toshio ZHANG Xinyuan <u>Watson BALDWIN</u> KIM Hee Sup KIM Juhyeon & OH Jieun & CHO Min Sook & YOON Hei-Ryeo	Session: Qufu [Chinese] <u>Chair: ZHENG Nan</u> ZHAO Rongguang WANG Yongqiang LIU Junli LIN Yexin ZHENG Shuguo
13:00-	Introductory Remarks and Keynote Speeches					
Dec. 4	Room A (K310)	Room B (K307)	Room C (K306)	Room D (K304)	Room E (K305)	Room F (K309)
09:40-09:50	Group photograph at Epoch Ritsumei 21 in BKC					
10:00-12:00	Session: History ② [English] <u>Chair: IKEYA & SABBAN</u> Presenters: Françoise SABBAN ZHOU Hongcheng ZHANG Qian JIANG Xin TAKAGI Hitoshi, HAYASHI Fumiki	General Presentation [Chinese] <u>Chair: ZHAN Jia</u> ZHAO Rongguang ZHAN Jia GAO Haiwei ZHENG Nan ZHOU Kai	General Presentation [English] <u>Chair: La TRECCHIA & NASYROVA</u> Patrizia La TRECCHIA Olga TARANOVA Akram RAHMATOV Firuzza NASYROVA CIRENYANGZONG	General Presentation [Chinese] <u>Chair: KAWAI & ABE</u> CHU Chiawen HUANG Ao LIU Chih-hao CIDANZHAXI LI Jiangang & TAISHAN Zhang	General Presentation [Chinese] <u>Chair: XIE & CHO</u> XIE Dingyuan CHEN Su-Chen SONG Fangfang & CHO Mi Sook WU Yunxia ZHENG Shuguo TAKAYA Kazuko	
(Intermission)						
13:30-16:50	General Presentation [Japanese] <u>Chair: JOO Youngha</u> JOO Youngha LEE MinJae GUAN Jianping	General Presentation [Chinese] <u>Chair: CHENG Ya-chih</u> CHENG Ya-chih ZHENG Shuang ZHOU wang and LIN Yexin LIN Menglin	Session: Environment and Body [English] <u>Chair: NOBAYASHI Atsushi</u> Presenters: HAMADA Shingo NOBAYASHI Atsushi OSAWA Yoshimi Ethan SCHOOLMAN WAKAMATSU Fumitaka	Session: Socialism and China [Chinese] <u>Chair: KAWAI & LIU Hiroshi</u> Presenters: LU Ying LIU Zhengyu WANG Si SU Shi-tian ABE Tomohisa KAWASE Yoshitaka KAWAI Hironao	Session: Economy [English] <u>Chair: IZAWA Hiroshi</u> Presenters: Michelle BLOOM <u>CHENG Xiaomin</u> Søren M. CHR. BISGAARD MA Junhong Jean DeBERNARDI IZAWA Hiroshi	Session: Safety and Health [Japanese] <u>Chair: EBI Kumiko</u> Presenters: ISHIHARA Kengo & TAKAISHI Testuo MURAKAMI Yukako MASUYAMA Ritsuko WADA Yuji YAMANAKA Sachiko KAIZAKI Aya SHUDO Yuka YOSHIKAWA Naoki FUJIWARA Natsumi
	General Presentation [Japanese] <u>Chair: GUAN Jianping</u> NONOMURA Maki RA Yeonjae NAKATA Shion OMURA Shogo					